

著作権保護コンテンツ

特 集

おめでとう **50周年**

# ぐりとぐら



ぼくらのなまえは ぐりとぐら



このよで いちばん すきなのは おりょうりすること たべること

1963年に出版されると同時に大反響を巻き起こし、“子どもが間違いなく喜ぶ絵本”の代名詞とまでいわれた『ぐりとぐら』。日本を代表する名作となり、世代を超えて愛されている『ぐりとぐら』が今年で誕生50周年を迎えます！

撮影／澤田 和廣 撮影協力／学校法人東育学院コドモの園幼稚園







この人にあれもこれも

# 絵本作家さん こんにちは！



「くっついた」  
などでおなじみ！

みうら たろう  
**三浦 太郎**さん

## 人生、アイデア勝負！

赤ちゃん絵本や乗り物絵本で人気の三浦太郎さん。  
アイデアがひらめくと、とことんおもしろくなるまで追求してみたくなる性分。  
その原点にさかのぼりつつ、いろいろと伺いました。

撮影／石川 正勝 取材・文／菅原 千賀子

ワニの口がパクパク開けば  
「アイデア人生」の幕も開く

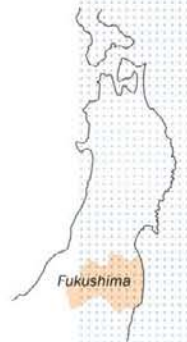
実は僕、長い間本を買ったことがありませんでした。僕の実家は本屋。毎日店で立ち読みできちゃう環境でしたから、あらゆるジャンルの本を手にとり、たえず本を眺めてはいました。大学に入り、実家から離れてびっくりしたのが「本って高い」ということ。美術書やアート系の本がほしくてもなかなか手が出ない。なぜもつとたつぷり読んでおかなかったのか、と悔やみましたね。家を出て自分で本を買うようになり、僕の本棚も本であふれるようになりましたが、作者でありながらいまだに本を買うのがもったいないという感覚が抜けなかつたりします、いかなあ(笑)。

絵や工作が得意だと自覚したのは小学校1年生のとき。工作をほめられたのが最初です。空き箱で動物をつくらうというテーマで、僕はワニをつくることにしました。でも、ただ箱を組み合わせるだけではおもしろくない。しっぽを引っぱると、口が開いたり閉じたりしたら……？「ん！これはおもしろいぞ」って、自分の中ではじめて何かがひらめいた。これぞ「アイデア人生」の幕が開いた瞬間！あの日から僕はアイデアで生きていくという感覚があります。絵本をつくる時もそう。絵よりアイデア重視が僕の創作の基本ですね。



# 被災地に子どもの本ができること

東日本大震災発生から2度目のお正月を迎えました。  
東日本大震災直後からJPICはさまざまな団体や作家さんと手を組んで  
子どもたちの読書環境の整備に心を砕いてきました。  
丸2年を迎える節目に、その取り組みのいくつかをご報告します。



てくてくてく文庫を子どもたちの笑顔のために

被災地の厳しい環境は続いています。子どもたちは明るく元気です。大人にとっては、それが数少ない心のよりどころ。新年早々、会津若松で子どもたちの笑顔に触れる機会を得ました。

「この本読んで！」編集人 なかいすみきよし

1月10日夕、飯野和好さんとともに福島県の会津若松駅に降り立ちました。あたりは雪化粧を施し、一面真っ白。「てくてく文庫」寄贈第1弾のためです。この取り組みは、昨年9月に紀伊國屋サザンシアターにて開催の文士劇「てくてく座 山鹿灯笼夢日記 よへほ恋の湯祭り」(読売新聞社、JPICの共催)の入場料売り上げを原資とした東日本大震災被災地支援活動です。

寄贈先の富岡幼稚園は、東京電力の福島第一原発事故により双葉郡からの避難を余儀なくされ、2011年秋からこの地で園を再開。現在、双葉郡から避難中の子どもを中心に11名の園児が通っています。ホームページをのぞくと、「今年度は、避難されているお子様は入園料、保育料を無料としております」と……。「少しでもお役に立てれば」との思いでやってきました。

ここ会津若松は、2013年NHK大河ドラマ「八重の桜」の主人公、新島(山本)八重の生誕の地。ちょうど第1回を放送したばかり。駅からホテル、商店店頭、果ては個人宅(?)まで、凛々しい綾瀬はるかさんの大型ポ



鶴ヶ城を背景に和装の飯野さん、きまっていますね!



次はどれを読もうかな。

スターで埋め尽くされています。街じゅうが「桜でファイバー」という感じですよ。

翌11日10時に富岡幼稚園に到着。園児たちが、顔を合わせるたびに「おはようございます!」と元気いっぱい挨拶をくれます。こちらも負けじと「おはよう!」と返すと、園児ももっと元気に「おはようございます!!」。こちら負けじと……キリがありません。

プレゼント用の110冊の絵本と強化段ボール製の本棚は、すでに到着しており、ほかがお遊戯室に組み立て、設置しました。絵本の一部、30冊程度はてくてく座所属作家のサイン本で、先生方にその旨を伝えると、「ひゃー、もったいないから別しときましょう」とのこと。それもそうだ。かじられたり、ちぎられたり……ですね。

さて、いよいよ10時30分、飯野劇



# 著作権保護コンテンツ

## 「ぼにより ぼにより」

タヌキのおじさんが「ぼによりぼにより」と歩いてみると、「へこぼんへこぼん」「つてつて」「とはとは」「ずのんずのん」とやってくる人たちに会いました。いったいどんな人たちなのでしょう。いろいろなオノマトベが出てきます。



作/内田 麟太郎  
絵/林家 木久扇  
1,400円(今人舎)

## 「月の満ちかけ絵本」

毎日姿を変える月にそれぞれ名前をつけたり、お祈りをしたり、生活に深く結びついている月。満ち欠けの仕組みやその29日と12時間44分のサイクルをたどりながら、宇宙の神秘にまで、わかりやすく迫ります。2019年までの月の満ち欠け表つきです。



文/大枝 史郎  
絵/佐藤 みき  
1,200円(あすなろ書房)

## 「おたんじょうび、おことわり?」

クマは、誕生日が嫌いです。毎年誕生日は掃除の日と決めていて、忙しい日だからです。ネズミはクマの誕生日を祝おうといういろいろな作戦に出ます。果たして作戦は成功するのでしょうか? 喜んでくれるのでしょうか?



文/ボニー・ベッカー  
絵/ケイティ・マクドナルド・デントン  
訳/横山 和江  
1,300円(岩崎書店)

## 「えんそく ごいっしょに」

今日は泥棒たちの遠足です。ひよんなことから、刑事たちと出会いました。泥棒たちは怪しまれないように落ち着いて進んでいきます。刑事たちは、泥棒と気がつかない様子で一緒に遠足に加わろうとします。



作/小竹守 道子  
絵/ひだ きょうこ  
1,400円(アリス館)

## 「こころやさしいワニ」

どこをとっても、申し分なくおっかないワニがいました。でも、このワニ、見た目と違って心やさしく、家事はなんでもできる働き者。どこかのお家で飼われたいと心底願っていました。そして、ある日、とってもいいアイデアを思いついたのです。



作/ルチーア・パンツィエーリ  
絵/アントン・ジョナータ・フェッラーリ  
訳/さとうのりか  
1,500円(岩崎書店)

## 「かんぱーい」

私とお母さん、ジュースとコーヒーで「かんぱーい」。ゾウさんはバナナ、鳥さんはさくらんぼで「かんぱーい」。「かんぱーい」って、楽しくって、おいしくって、わくわくするね。さあ、みんな一緒に「かんぱーい」しましょ!



作/山岡 ひかる  
1,000円(アリス館)

ゼーんぶプレゼント  
もう読んだ??  
新刊 100!!

2012年9~11月に発売された新刊絵本の中から、読みかきせにもおすすめの100冊を選びました。プレゼント応募はアンケート用紙、またはウェブから。

※出版社五十音順  
🍷 マークは乳幼児から、  
🎵 は中・高校生も楽しめる本です。

## 「あててえな せんせい」

小学1年生のよしみちゃんは本が大好きなのに、国語の時間にドキドキして手も足も震えて本が読めませんでした。家に帰ってわあわあ泣くよしみちゃんは、やさしいお母ちゃんに励まされて本読みの練習を始めました。



文/木戸内 福美  
絵/長谷川 知子  
1,200円(あかね書房)

## 「サッカーがだいすき!」

地区の選抜チームに選ばれたシエラは、サッカーが大好きな女の子です。けれど悲しいのは、いつも励ましてくれるおばさんが、仕事で試合を見に来られないことでした。シエラは思いきって、コーチのマルコにある提案をしました。



作/マリベス・ボルツ  
絵/ローレン・カスティオ  
訳/MON  
1,000円(岩崎書店)

## 「ニットさん」

ニットさんは編み物が得意です。シャカシャカとイスやテーブル、ティーポット、なんでも編んじゃいます。それだけじゃありません。家だってお月さまだって、あらら、宇宙もニットさんが編んだ毛糸でできていました。



作/たむら しげる  
1,300円(イースト・プレス)

## 「アナベルと ふしぎなけいと」

白い雪の冷たい午後、アナベルは色とりどりのきれいな毛糸が入っている箱を拾いました。最初に自分のセーターを編み、次にイヌのマスのセーターを編みましたが、毛糸はまだあります。アナベルは次々といろいろなものを編んでいきました。



文/マック・バーネット  
絵/ジョン・クラッセン  
訳/なかがわちひろ  
1,300円(あすなろ書房)